

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2013.5

vol. 85

## 歯科口腔外科 開設



昨年の4月から準備を行ってきましたが、このたび平成25年3月1日に鹿児島医療センターに歯科口腔外科が開設されました。今まで週1回院内のがん患者さんを中心に不十分ながら口腔ケアをさせて頂きましたが、今回の開設により当院の患者さんに口腔ケアだけでなく歯科治療を含めたより充実した口腔管理の提供ができるようになったものと考えております。

従来よりう蝕や歯周炎などの口腔内疾患と全身疾患との関連については多数報告されてきましたが、近年、様々な全身疾患の治療に際して口腔ケアによる口腔衛生の改善や口腔環境の改善が合併症の軽減にも

有効であることが報告されています。そのため、全身疾患の治療に当たっては口腔ケアなどを中心とした歯科の連携が強く望まれるようになってきました。とりわけ、がん治療においてはその治療過程の中で口腔内にも様々な合併症が発症します。その発症頻度は、一般的な抗がん剤治療を行う患者の40%、大量に強い抗がん剤投与を行う骨髄移植治療の80%、口から喉の周囲の頭頸部がんの放射線治療では100%と報告されています。また、頭頸部がん・食道がんのような侵襲の大きい手術では、局所合併症や肺炎が高い頻度で起こることも報告されています。このような中、がん診療における口腔ケアに関連して国立がん研究センターと日本歯科医師会との連携事業も始まりました。

当院では循環器疾患、脳血管障害、がん診療を3本柱として地域医療に貢献するよう努力してきましたが、そのなかで今回の歯科口腔外科開設の一番の目的はがん診療の充実です。前述したようながん診療における口腔合併症などに対して、がん治療を開始する前から口腔内の評価、歯科治療や歯石除去、ブラッシング指導など口腔衛生状態を改善するための口腔管理を行うことにより、がん治療中の口腔粘膜炎の発症頻度や重症度の軽減、歯・歯周組織を原因とする慢性炎症の急性化を予防し、さらには頭頸部がんなどにおける術後の局所合併症や肺炎の発症頻度の低下など治療そのものを円滑に行えるように歯科的に支援することによりがん診療に貢献することが大きな目的です。

もう一つの目的は地域医科歯科医療連携です。昨年の6月25日に山下病院長と森原県歯科医師会会長の間で「がん患者の口腔ケアに関する医科歯科連携」提携の調印が行われました。がん患者の口腔管理に当たっては入院期間だけでなく、入院前や退院後も引き続き継続されることが大切です。そのため歯科治療を含めた口腔管理が当科で完結するのではなく、地域の歯科医療機関の先生と協力して患者さんが生活をしておられる地域で継続して口腔管理が行えるような医科歯科連携が行えるよることを目標にするとともにそのモデルとなるよう努力していきたいと思います。

また、口腔ケアを含めた口腔管理はがん診療だけでなく、当院の診療の柱である循環器疾患、脳血管障害やその他多くの疾患で重要な課題です。当科ではそのような疾患の口腔管理も行っていきます。がん治療における口腔管理と同様にそのような疾患の患者さんにおいても地域歯科医療機関の先生と連携し継続的で安心な歯科サービスが提供できるような診療体制の構築を目指し、鹿児島県における地域医科歯科連携の推進の一助となるように努力していきます。

（文責：歯科口腔外科医長 中村 康典）



# 公開講座を終えて

副院長：皆越 眞一



関係者各位：

去る3月3日、第3回心臓・血管病市民公開講座が県民交流センターにて行われました。年度末のあわたたしい業務の中、病院機能評価なども加わった日程の中での開催でしたが、病院内の各分野の方々の懸命な準備によって、内容の深いフェスタと講演会を執り行うことができました。今回のテーマは「動脈硬化と狭心症：狭心症と言われたことがありますか」でした。午前中の健康フェスタでは、救急処置の実際、健康チェック（体脂肪、血圧、検脈）、正しい血圧測定の実習、自宅血圧計のチェック、減塩食の実際、栄養指導、画像で見る心血管（心エコー法、CT法、MRI法）、薬剤内服、医師による健康相談、などのコーナーが設けられ、看護部、検査部、栄養部、薬剤部、事務部、医師、など各部門総出で行われました。午後は講演会が行われ、山下前院長の挨拶後、ツカサヘルスケアホスピタル病院の内科部長、枇榔貞利先生による特別講演「動脈硬化と狭心症」の後、当院循環器スタッフによる狭心症の診断、狭心症の治療（カテーテル治療、外科治療）、狭心症の予防（生活習慣、運動療法）の一般講演に引き続きパネルディスカッションが行われ、最後は中重前看護部長の挨拶で終了しました。

第一回目、二回目の参加人数が500人以上であったのに対し、今回は当方の準備不足もあり、360人と少なかったことは残念でした。しかし、参加された方々からは、「フェスタではAEDの実技ができてよかった」、「ABIをもっと多くの人にしてほしい、またその意義も知りたい」などの声が聞かれ、講演については「とても勉強になる市民講座であった」、「3回目の参加であるが今回はとてもわかりやすく感激した」、「講演時間をもっと長くしてほしい」、「手術の映像が衝撃的で、貴重な体験であった」などの御意見のほか、「栄養、食事の講演も入れて欲しい」、「予防の話をもっと聴きたい」、「心房細動の講演もしてほしい」、「講演と講演を繋ぐコーディネーターのような人を入れたい」、「もっとテレビなどのコマーシャルをしてたくさんの人に聞いてもらってほしい」などの積極的な熱い御意見をいただきました。

この公開講座の目的は、公的病院として市民・県民との医学・医療知識の共有化と心臓病の予防をめざすものです。今後は高齢者だけでなく、さらに中年層へのアプローチも試みることで、動脈硬化を始めとする心臓病の予防をさらに強化・推進してゆく必要があると思います。

最後になりますが、今回の公開講座に御参集いただきました病院のあらゆる部門の方々に厚く御礼申し上げます。



# CT装置更新及び増設について

# 南九州初号機導入

今年の3月に第2CT装置『SOMATOM Definition AS』(fig1)が増設、4月に第1CT装置が更新となりました。2台の装置とも SIEMENS 社製であります。鹿児島県では初号機、九州では当院で5台目となる最新鋭機『SOMATOM Definition Flush』は、Dual SourceCT テクノロジーをさらに飛躍させた高速二重螺旋スキャンにより、従来の一般的なCT装置と比較して4倍以上という超高速撮影スピードでの撮影ができます。



fig 1 『SOMATOM Definition AS』



fig 2 『SOMATOM Definition Flush』

また、次世代型検出器「Stellar Detector」を搭載し、逐次近似再構成法の採用で、非常にわずかな放射線被ばく線量での撮影と画質の向上を実現しています。これまでのマルチスライス化の流れとまったく異なるテクノロジーによって、詳細な解剖学的画像を得ながら、同時に「より患者様に優しい」CT検査が可能になりました。

今回は、第1CT室に導入した装置『SOMATOM Definition Flush』(fig2)について、特徴の一部をご紹介します。

## —Dual Source (デュアルソース)CT—

CT装置は X 線を放出する管球とその検出器が対となり、回転してデータを収集、コンピュータで断層画像に再構成・表示します。これまでの CT は X 線管球と検出器が1対であるのが常識でしたが、Dual Source CT は X 線管球と検出器を2対搭載し同時に撮影およびデータ収集を行います。よって、従来のマルチスライスCTと比べて撮影時間が大幅に短縮され、より短い時間での撮影が可能となりました。

2管球を用いて高エネルギーと低エネルギーの同時スキャンにより時間的、空間的に等価な2種類の異なるエネルギーのデータが取得できます。得られた2種類のデータから、造影剤成分のみの抽出 (fig3)、骨と血管、石灰化などの組織分別や腎結石などの組成解析など今まで描出できなかった画像を得ることが可能となり、診断能の向上が期待できます。

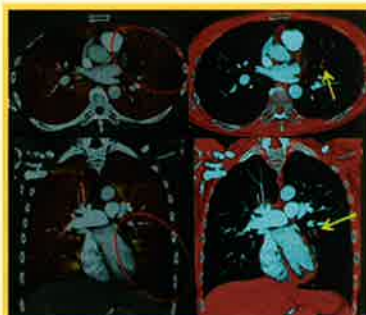


fig 3 『肺動脈塞栓での血流情報の描出』

## —Flash Spiral—

### 呼吸止め不要全肺 0.6 秒間 46cm の超高速撮影

2対のX線管球と検出器が、「2つの螺旋軌道(スパイラル)を描きながら」同時にデータを収集することにより、より幅広い撮影範囲を1つのボリュームデータとして瞬時に収集することが可能となりました。

これにより息止めの困難な患者様や、小児のCT検査、救急領域の撮影においてきわめて有用であり、広範囲(最大で2m)を短時間で撮影できます。

これを心臓検査に応用することで、HR が 65 以下であれば、息止めが難しい患者様でも心臓検査が低被ばくで行えます (Flash Spiral Cardio)。心臓全体をわずか1/4心拍の 0.25 秒、1mSv 以下の被ばく線量で撮影が可能になるのはもちろん、時間分解能も Dual Source CT 装置ならではの 75msec (ハーフリコン) での検査が可能です (fig4、5)。



fig 4 『HR46、心臓全体を撮影時間 0.28 秒、CTDIvol5.04mGy で撮影』

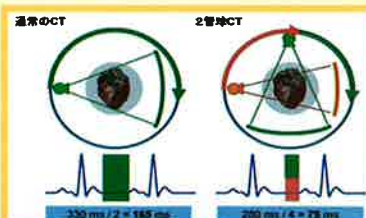


fig 5 『世界最速の2重螺旋撮影』

## —Organ-sensitive dose protection—

### 放射線感受性が高い部位の防護

X-CARE により、女性の乳房や甲状腺をはじめとする放射線感受性の高い部位に最も直接的な X 線照射が行われる X 線管球の回転位置で X 線の照射を停止します。この方法により各部位の被ばくが最大で 40 パーセント低減されます。従来より採用している被ばく低減アプリケーション (adaptive dose shield、CARE Dose 4D) との併用でさらなる被ばく低減を実現し、放射線感受性の高い部位への直接被ばくを最小限に抑えます。

今回のCT増設及び更新により、当院は2台の高機能CT装置を揃えることになりました。

今後とも地域の基幹病院としての機能を発揮していくために、今まで通りの高質な画像の提供とこれまで以上に急患の検査対応がスムーズに施行できるよう、放射線部一同努力して参ります。

(文責：診療放射線技師長 藤中 正治)

# 新任紹介



外科医長

蒺方 輝夫

2013年3月1日、外科に赴任しました。前任の鹿児島大学病院では、12年間、消化器外科、特に肝胆膵外科領域の臨床・研究・教育に従事しておりました。循環器・脳卒中・がんを診療の3本柱と掲げる当院において、集学的な消化器がん治療と一般外科・消化管・肝胆膵良悪性疾患の手術（緊急・待機を問わず）を通して、当院の発展に寄与できればと考えております。よろしくお申し上げます。

鹿児島大学研究者総覧↓

<http://kuris.cc.kagoshima-u.ac.jp/307379.html>

鹿児島大学大学院心臓血管・消化器外科学消外紹介HP↓

<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~surgery2/project02.html>



歯科口腔外科医長

中村 康典

平成24年4月から毎週1回歯科ラウンドをさせていただきましたが、今回平成25年3月1日より歯科口腔外科の開設に伴い、鹿児島医療センターに勤務させていただきますこととなりました。今までは口腔衛生指導などしか行えませんでした。これからはいわゆる口腔ケアだけでなく歯科的な治療を含めた口腔管理を行っていきたくと考えております。また、地域歯科医療機関との連携もはかり、医科歯科地域医療連携の良いつなぎ役となり連携の推進にも貢献していきたくと考えております。今後、当院入院患者さんや通院患者さんのがんなどの主たる疾患の治療に対して歯科的な支援でお役に立てるように努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。



第一循環器科医師

楠元 啓介

平成25年3月から第一循環器科で勤務させて頂いています。

専門分野はまだ未熟ですが、狭心症や急性心筋梗塞等の虚血性心疾患に対するカテーテル治療です。

まだ病院のシステムや環境に慣れず、周りの先生方やスタッフの方々に御迷惑をお掛けしてばかりですが、患者様やかかりつけの先生方のお役に立てるよう精一杯頑張りますので、今後とも何卒宜しく御願致します。

■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

## 鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 蘭田・四丸・永重・重吉・森・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津

直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

